

社会福祉法人 大阪市鶴見区社会福祉協議会

定 款

制 定 平成 5年 7月 1日

最近改正 令和 元年 7月 23日

第 1 章 総 則

(目 的)

第 1 条 この社会福祉法人（以下「本会」という。）は、大阪市鶴見区における社会福祉事業その他の社会福祉を目的とする事業の健全な発達及び社会福祉に関する活動の活性化により、地域福祉の推進を図ることを目的とする。

(事 業)

第 2 条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 社会福祉を目的とする事業の企画及び実施
- (2) 社会福祉に関する活動への住民の参加のための援助
- (3) 社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成
- (4) 第 1 号から第 3 号のほか、社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業
- (5) 保健医療、教育その他の社会福祉と関連する事業との連絡
- (6) 共同募金事業への協力
- (7) 地域社会福祉協議会の育成
- (8) 鶴見区善意銀行の運営
- (9) 鶴見区在宅サービスセンターの設置運営
- (10) 福祉サービス利用援助事業
- (11) 老人福祉センターの管理運営代行
- (12) 生活に関する相談事業
- (13) その他本会の目的達成のため必要な事業

(名 称)

第 3 条 本会は、社会福祉法人大阪市鶴見区社会福祉協議会という。

(経営の原則)

第 4 条 本会は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を确实、効果的

かつ適正に行うため、自主的に経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

- 2 本会は、住民や福祉関係者等とともに地域の福祉課題・生活課題の解決に取り組み、支援を必要とする者に無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

(事務所の所在地)

第 5 条 本会の事務所を大阪市鶴見区諸口 5 丁目浜 6 番 1 2 号鶴見区在宅サービスセンター内に置く。

第 2 章 評 議 員

(評議員の定数)

第 6 条 本会に評議員 2 3 名以上 4 3 名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

- 第 7 条 本会に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。
- 2 評議員選任・解任委員会は、外部委員 1 名、監事 2 名の合計 3 名で構成する。
 - 3 評議員選任・解任委員の選任及び解任は、理事会において行う。
 - 4 選任候補者の推薦及び解任の提案は、別に定める規程に基づき理事会が行う。
 - 5 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。
 - 6 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員の 1 名以上が出席し、かつ、外部委員の 1 名以上が賛成することを要する。
 - 7 評議員選任・解任委員会の運営についての規程は、理事会において定める。

(評議員の任期)

- 第 8 条 評議員の任期は、選任後 4 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。
- 2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとすることができる。
 - 3 評議員は、第 6 条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を

有する。

(評議員の報酬等)

第 9 条 評議員の報酬は、これを支弁しない。ただし、評議員には別に定める規程により費用を弁償することができる。

第 3 章 評 議 員 会

(構 成)

第 1 0 条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

(権 限)

第 1 1 条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 予算及び事業計画の承認
- (5) 計算書類（貸借対照表、資金収支計算書及び事業活動計算書）及び財産目録並びに事業報告の承認
- (6) 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄
- (7) 定款の変更
- (8) 残余財産の処分
- (9) 基本財産の処分
- (10) 社会福祉充実計画の承認
- (11) 役員等の損害賠償責任の免除又は一部免除
- (12) 法人の解散
- (13) 吸収又は新設合併契約の承認
- (14) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開 催)

第 1 2 条 評議員会は、定時評議員会として毎年度 6 月に 1 回開催するほか、3 月及び必要がある場合に開催する。

(招 集)

第 1 3 条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

2 評議員は、会長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(議 長)

第14条 評議員会に議長を置き、議長はその都度評議員の互選とする。

(決 議)

第15条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行い、可否同数のときは議長の決するところによる。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

(1) 監事の解任

(2) 定款の変更

(3) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第17条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員(当該事項について議決に加わることができるものに限る。)の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

(議 事 録)

第16条 評議員会の議事については、法令の定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2人は、前項の議事録に署名又は記名押印する。

第 4 章 役 員

(役員の数)

第17条 本会は、次の役員を置く。

(1) 理 事 10名以上15名以内

(2) 監 事 2名

2 理事のうち1名を会長、3名を副会長、1名を常務理事とする。

3 前項の会長をもって社会福祉法の理事長とし、常務理事をもって同法第45条の

16第2項第2号の業務執行理事とする。

(役員を選任)

第18条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。理事及び監事の各候補者の推薦の提案は、別に定める規程に基づいて、理事会が行うこととする。

2 会長、副会長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

第19条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、本会を代表し、その業務を執行する。

3 副会長は、会長を補佐する。

4 常務理事は、理事会において別に定めるところにより、本会の業務を分担執行する。

5 会長、常務理事は、毎会計年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第20条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、本会の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第21条 理事又は監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとすることができる。

3 理事又は監事は、第17条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第22条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって

解任することができる。

- (1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第23条 理事及び監事の報酬は、これを支弁しない。ただし、理事及び監事には別に定める規程により費用を弁償することができる。

第5章 顧問・相談役並びに参加

(顧問・相談役並びに参加)

第24条 本会に顧問・相談役並びに参加それぞれ若干名を置くことができる。

- 2 顧問・相談役並びに参加は、理事会の決議を得て会長が委嘱する。
- 3 顧問・相談役は、本会の業務について会長の諮問に答え又は意見を具申する。
- 4 参加は、理事会及び評議員会に出席して意見を述べるができる。
- 5 任期については、役員任期に準ずる。
- 6 前各号のほか、顧問・相談役並びに参加の選任に関する規程は、別に定める。

第6章 理事会

(構成)

第25条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

(権限)

第26条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては会長が専決し、これを理事会に報告する。

- (1) 本会の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 会長、副会長及び常務理事の選定及び解職

(招集)

第27条 理事会は、会長が招集する。

- 2 会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、副会長が理事会を招集する。
- 3 理事は、招集権者に対し、理事会の目的である事項を示して、理事会の招集を請求することができる。また、請求があった日から5日以内に、その請求があった日から2週間以内の日を理事会とする理事会の招集の通知が発せられない場合は、その請求

をした理事は、理事会を招集することができる。

(議 長)

第28条 理事会に議長を置き、議長はその都度理事の互選とする。

(決 議)

第29条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行い、可否同数のときは議長の決するところによる。

2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

(議 事 録)

第30条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した会長及び監事は、前項の議事録に署名又は記名押印する。

第 7 章 会 員

(会 員)

第31条 本会に会員を置く。

2 会員は、本会の目的に賛同し、目的達成のため必要な援助を行うものとする。

3 会員に関する規程は評議員会において別に定める。

第 8 章 部会及び委員会

(部会及び委員会)

第32条 本会に部会又は委員会を置く。

2 部会又は委員会は、専門的事項について、本会の運営に参画し、或いは会長の諮問に答え、又は意見を具申する。

3 部会及び委員会に関する規程は、別に定める。

第 9 章 事務局及び職員

(事務局及び職員)

第33条 本会の事務を処理するため事務局を置く。

2 本会に、事務局長を1名置くほか、職員若干名を置き、会長が任免する。

3 事務局及び職員に関する規程は、別に定める。

第10章 資産及び会計

(資産の区分)

第34条 本会の資産は、これを分けて基本財産、その他財産及び公益事業用財産の3種とする。

2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

(1) 現金 3,000,000円

(2) 建物 大阪市鶴見区諸口5丁目1121番地1

・鉄筋コンクリート造陸屋根3階建

延床面積 1114.68㎡

(鶴見区在宅サービスセンター)

・鉄筋コンクリート造陸屋根平家建

床面積 3.53㎡

(集塵室)

3 その他財産は、基本財産、公益事業用財産以外の財産とする。

4 公益事業用財産は、第42条に掲げる公益を目的とする事業の用に供する財産とする。

5 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第2項に掲げるため、必要な手続をとらなければならない。

(基本財産の処分)

第35条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事総数(現在数)の3分の2以上の同意及び評議員会の承認を得て、大阪市長の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には大阪市長の承認は必要としない。

(1) 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合

(2) 独立行政法人福祉医療機構と協調融資(独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行なう同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。)に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合(協調融資に係る担保に限る。)

(資産の管理)

第36条 本会の資産は、理事会の定める方法により、会長が管理する。

- 2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、管理するものとする。

(事業計画及び収支予算)

第37条 本会の事業計画書及び収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに、会長が作成し、理事総数（現在数）の3分の2以上の同意及び評議員会の承認を得なければならない。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第38条 本会の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 資金収支計算書及び事業活動計算書
- (5) 計算書類（貸借対照表、資金収支計算書及び事業活動計算書）の附属明細書
- (6) 財産目録

- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、承認を受けなければならない。

- 3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
- (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第39条 本会会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第40条 本会の会計処理状況は、常に明確にしておかななければならない。

- 2 本会の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第41条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数（現在数）の3分の2以上の同意及び評議員会の承認を得なければならない。

第11章 公益を目的とする事業

(種別)

第42条 本会は、社会福祉法第26条の規定により、住民が個人の尊厳を保持しつつ、自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の事業を行う。

- (1) 居宅介護支援事業
- (2) 鶴見区地域包括支援センターの受託経営
- (3) 介護予防支援事業
- (4) 介護予防教室事業
- (5) 鶴見区ボランティア・市民活動センターの運営
- (6) 生活困窮者自立相談支援事業（相談支援）
- (7) 生活支援体制整備事業
- (8) 認知症初期集中支援推進事業

2 前項の事業の運営に関する重要な事項については、理事総数（現在数）の3分の2以上の同意及び評議員会の承認を得なければならない。

第12章 解散及び合併

(解散)

第43条 本会は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

2 社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号に規定する解散をする場合には、理事総数の3分の2以上の同意を得、評議員会の決議により、大阪市長の認可又は認定を受けなければならない。

(残余財産の帰属)

第44条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、理事総数の3分の2以上の同意を得、評議員会の決議により、社会福祉法人のうちから選

出されたものに帰属する。

(合 併)

第45条 合併しようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意を得、評議員会の決議により、大阪市長の認可を受けなければならない。

第13章 定款の変更

(定款の変更)

第46条 この定款を変更しようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意を得、評議員会の決議により、大阪市長の認可（社会福祉法第45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を大阪市長に届け出なければならない。

第14章 公告の方法その他

(公告の方法)

第47条 本会の公告は、社会福祉法人大阪市鶴見区社会福祉協議会の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞、本会の機関紙、又は電子公告に掲載して行う。

(施行細則)

第48条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則

本会の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、本会の設立後、遅滞なくこの定款に基づき役員を選任を行うものとし、その任期は、この定款第9条の規定にかかわらず、平成6年5月31日までとする。

理 事	(会 長)	馬 場 益 三
理 事	(副会長)	松 本 フ サ
理 事	(副会長)	田 中 富 一
理 事	(副会長)	川 端 博
理 事		宮 城 サナエ
理 事		原 弘
理 事		杉 本 歌次郎
理 事		北 井 進
理 事		灰 塚 一 郎

理事	鎮西喜重郎
理事	井戸勝一
理事	中谷力三
理事	田中平一
理事	間神隆
理事	岩橋明子
監事	中村善長
監事	久木節

附 則

変更後の定款は平成22年7月28日から施行する。

- 平成22年7月28日付けの定款変更の認可申請に伴い増員された評議員3名の任期は、第19条の規定にかかわらず、平成24年5月31日までとする。

附 則

変更後の定款は平成24年1月31日から施行する。

変更後の定款は平成28年5月16日から施行する。

変更後の定款は平成28年8月22日から施行する。

附 則

平成29年度の定時評議員会で選任された理事・監事の任期は、第21条の規定にかかわらず、平成29年度に関する定時評議員会の終結の時までとする。

附 則

この定款は、平成29年4月1日施行する。

(平成29年2月3日 大阪市指令福祉船分第223号)

附 則

変更後の定款は平成30年6月27日から施行する。

(平成30年6月27日 大阪市指令福祉船分第14号)

附 則

変更後の定款は令和元年5月24日から施行する。

(令和元年5月24日 大阪市指令福祉船分第23号)

附 則

変更後の定款は令和元年7月23日から施行する。

(令和元年7月23日 大阪市指令福祉船分第43号)